

再考

りきじん

彫りもんを納める箱には部材名や題材名を記しますが、そりやあ読み仮名までは振りません。意外にも調べて判ったのは、力神の箱書きに“神”でなく“人”・・・これに該当する組が、実は少なくない。でも“力人”は“りきじん”と、どこの組でも読まれます。亀崎中切組は“りきじんしゃ”であり、箱書きには“力雄神”とあります。でも“力人”は“



←亀崎 中切組力神車
“力雄神、
立川和四郎富昌

ちからびと”とも読める。耳触りもいいですね。りきじんのルーツは力士。つまりお相撲さんのような力の強い人なんだげな。なるほど、まるで土俵入りの踏ん張った姿に似ていますね。壇箱の隅に座るのはよく目立っている。特に山車に提灯を下げて宵宮を迎える頃の、夕日を浴びて筋肉の隆起が際立つ姿には、しばしうっとり・・・

岩滑新田 奥組旭車→
“力神、
初代彫常



←下半田
東組山王車
“力神、
初代彫常



下半田
南組護王車
“力人、
初代彫常

対し、持送りに座るのは大きな壇箱を支える構造体でもあるので、マッスル感が半端ないですね。腕木を掴む腕と指一本一本にまでチカラが漲っています。眺める角度で表情がまるで変わり、見ただけで元気になる“りきじん”の中から、あなたのお気に入りを探してみませんか。

